



福岡医発第1566号
平成24年9月19日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 松 田 峻一良
(公印省略)

こども病院研究基金記念講演会の開催について

標記の件につきまして、福岡市立こども病院・感染症センターより別紙のとおり通知が参りましたのでお知らせいたします。

福岡市立子ども病院・感染症センターでは、市民の善意により設立されたこども病院研究基金の収益によって小児医療の向上を目的とした研究活動が行われており、今般、本研究活動の報告の場として、『不登校と発達障害』をテーマに講演会が開催されます。

つきましては、貴会会員への周知方につきましてよろしくお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成24年10月20日(土) 13:30～16:30
2. 場 所 福岡市民福祉プラザ1階 ふくふくホール
福岡市中央区荒戸3-3-39
3. 内 容 テーマ『不登校と発達障害』
講 演「不登校になる子どもたち」
「発達障害は不登校になりやすい？」
特別講演 「学校における発達障がいのある子どもへの支援」
4. 定員等 定員200名。 入場無料・申込不要(当日先着順となります)
5. 託 児 対象: 6ヶ月から就学前まで
定員: 20名
(※9月28日までの事前申込みが必要です。)

平成24年 9月 5日

社団法人福岡県医師会 会長 様

福岡市立こども病院・感染症センター

院長 福重 淳一郎

こども病院研究基金記念講演会の

ご案内及び周知のお願い

初秋の候、貴医師会におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当病院では、市民の善意によって設立されたこども病院研究基金の収益によって小児医療の向上を目的とした研究活動を行っておりますが、この研究の報告の場として、また、医療・育児に関する幅広い情報提供の機会となることを願って、下記のとおり講演会を開催いたします。

つきましては、貴医師会関係の皆様方にぜひともご参加いただきたく、ポスターの掲示及びチラシの配付等につきまして、ご配慮くださいますようお願い申し上げます。また、広報誌への掲載をご検討いただけましたら幸いです。

記

- 1 日 時／平成24年10月20日（土）午後1時30分～午後4時30分
- 2 場 所／福岡市民福祉プラザ1階 ふくふくホール
(福岡市中央区荒戸3-3-39)
- 3 内 容／テーマ『不登校と発達障害』
講 演 「不登校になる子どもたち」
「発達障害は不登校になりやすい？」
特別講演
「学校における発達障がいのある子どもへの支援」
- 5 定員等／定員200名。入場無料。申込不要（当日先着順）
- 6 託 児／対象：6か月から就学前まで、定員20人
(9/28まで事前申込み:先着順)

<問い合わせ・託児申込み先>

福岡市立こども病院・感染症センター事務局経営企画課（担当—河野）

Tel 092-713-3125 / FAX 092-713-3120 / Eメール f-kodomo@fcho.jp

〒810-0063 福岡市中央区唐人町2丁目5番1号

講演要旨

不登校になる子どもたち

福岡市立こども病院・感染症センター こころの診療科臨床心理士 木原 順子

不登校という言葉が日常的に使われてきて10年以上が経ちました。不登校に対応して文部科学省は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー制度を導入し、その制度は定着してきました。しかし、依然として、不登校の児童・生徒の数は、全国で12万人を超えています。

一言で「不登校」と言っても、一人一人の状態は違います。身体症状を訴えたり、養育の問題がある子もいれば、その子自身がもつ発達の問題から不登校になる場合もあります。

子どもの一人一人の訴えに耳を傾け、同時に、保護者や学校の先生方からの客観的な情報を集めることにより、その子の状態をきちんと把握することが重要です。

発達障害は不登校になりやすい？

福岡市立こども病院・感染症センター

こころの診療科長 宮崎 仁

発達障害には自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）があり、不登校の子どもにおける発達障害の割合は高いと言われています。不登校になるのは、学校での対人関係、集団生活、あるいは学業などで何かしらうまくいかないことがあるからです。発達障害に気付かれていないために、学校で問題が生じて、本人に全く合わない指導がなされてしまう場合もあります。不登校となった発達障害の子どもの場合には、それぞれの発達障害の特徴を知り、なぜその子どもが学校で不適応の状態になっているかを理解することが支援の第一歩となります。

特別講演

学校における発達障がいのある子どもへの支援

福岡市教育委員会・発達教育センター

指導係長 池田 淳

発達障がいのある子どもを学校が「困った子」ととらえ、適切な支援がなされず、子どもの状態がさらに悪化するケースも少なくありません。発達障がいのある子どもは「困った子」なののでしょうか？それとも「困っている子ども」なののでしょうか？

平成19年に特別支援教育がスタートし、発達障がいのある子どもたちも支援の対象となりました。発達障がいのある子どもたちの学習上又は生活上の困難さを改善克服するために、教育行政として何をどのようにしようとしているのかを、昨年策定した福岡市特別支援教育推進プラン（福岡いきいきチャレンジプラン）を中心に紹介いたします。

託児あり (要申込)

託児（6ヶ月～就学前の乳幼児）を希望される方は、9月28日（金）までに下記の連絡先へお申し込みください。定員は20名です。

● 託児申込先 福岡市立こども病院・感染症センター事務局経営企画課
☎：092-713-3125

不登校と発達障害

不登校になる子どもたち

福岡市立こども病院・感染症センター こころの診療科臨床心理士 木原 順子

発達障害は不登校になりやすい？

福岡市立こども病院・感染症センター こころの診療科長 宮崎 仁

特別講演

学校における発達障がいのある子どもへの支援

福岡市教育委員会・発達教育センター 指導係長 池田 淳

質疑応答

司会 福岡市立こども病院・感染症センター 院長 福重 淳一郎

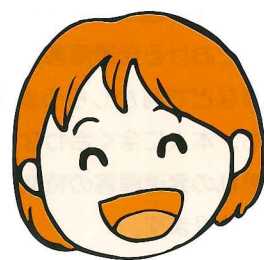
- ・当日受付で質問カードを配布し、特別講演終了後に回収いたします。
- ・ホームページ上にも、質問カードを添付しておりますので、事前にファックスでも受付いたします。

新病院の概要

福岡市立こども病院・感染症センター 院長 福重 淳一郎

こども病院
主催

託児あり



日 平成24年
時 **10月20日** 土 13:30~16:30
(開場13:00)

会場 福岡市民福祉プラザ1階
ふくふくホール 福岡市中央区荒戸3-3-39

定員 先着 **200名** (申込不要)

入場無料

お問い合わせ先

福岡市立こども病院・感染症センター 事務局経営企画課

電話 092-713-3125 FAX 092-713-3120

